

火災について



出火原因別「防火のポイント」

たばこ



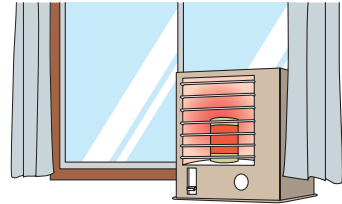
寝たばこやたばこの投げ捨ては絶対にしないでください。喫煙場所を決めておく、灰皿には水を入れておく、必ず消火を確認する、など気を付けましょう。



ストーブ



ストーブには燃えやすいものを近づけたり、ストーブで洗濯物を乾かささないでください。また、給油するときは、完全に火が消えたことを確認しましょう。



コンロ



天ぷらなどの油料理の時は、その場を絶対に離れないでください。離れるときは、必ず火を止めましょう。



火遊び



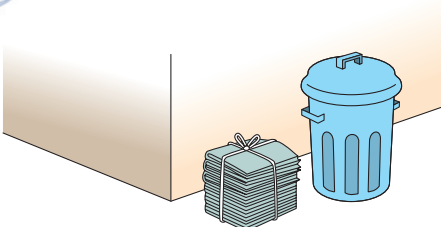
マッチやライターを子どもの手の届くところに置かないでください。花火の時は必ず大人が付き添いましょう。また、子どもに火の怖さを教えておきましょう。



放火



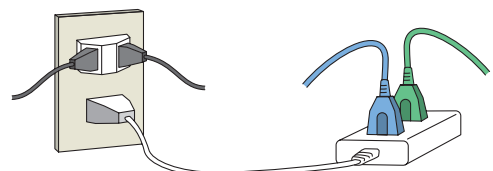
家の周りに古新聞やごみなどを置かない、ごみは収集日当日に出す、など放火に狙われにくい環境をつくるのが大事です。



電気器具



たこ足配線はしない、コンセントをさしたプラグにほこりをためない、コードの上に重いものを載せない、など注意して電気器具を利用しましょう。



火災に対する日ごろからの備え

住宅防災機器を利用しましょう

火災予防を目的に作られた製品を家の中にそろえ、「火災が発生しにくい環境」を整えましょう。

住宅用火災警報器(住警器)を設置する

消防法により、すべての住宅に住警器の設置が義務付けられています。既設住宅でも平成23年6月までに、すべての市町村で条例によって義務化されました。住警器は、住宅火災からの「逃げ遅れ」を減らす切り札ですから、まだ設置していないお宅は、早めに設置するようにしましょう。

防災品を購入する

住宅火災の多くは、布団やカーテン、衣類といった室内の繊維製品に着火して燃え広がります。防災品は、繊維製品などを燃えにくく改良したもので、認定品にはラベルが表示されています。



生活のなかに防火の習慣を

寝る前に必ず火の元を確認

ガスの元栓、こたつのコンセントなど、寝る前に火の元を点検する習慣をつけましょう。



高齢者の部屋は1階に

高齢者や子ども、傷病者の部屋はできるだけ外に逃げやすい1階にしましょう。

初期消火の3原則

通 報

- 大きな声で「火事だ!」と叫び、隣近所に知らせる。声が出ない場合は非常ベルや音の出るものをたたいて知らせること。
- 小さな火でも必ず119番に通報する。



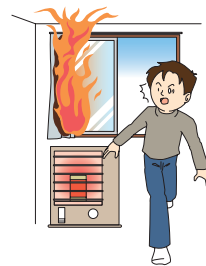
初 期 消 火

- 火が横へと広がっているうちは消火可能。備え付けの消火器のほか、水や座ぶとんなど身近なものを活用して消火する。



避 難

- 火が天井に届いてしまったらまよわず避難する。
- 避難するときは燃えている部屋の窓ガラスやドアを閉めて空気を遮断する。



消火器の使い方を覚えておきましょう

1 安全ピンを上引き抜く



2 ホースをはずして火元に向ける



3 レバーを強くにぎって噴射する



構 え 方

- 風上にまわり、風上で構える
- 屋内では出入り口を背後にして、避難路を確保する
- やや腰をおとして低く構える
- 熱や煙を避け、炎には真正面から向き合わない
- 炎を狙うのではなく、火の根本を掃くようにホースを左右に振る